

指導資料

国語 第96号

鹿児島県総合教育センター

- 小学校対象 -
平成13年11月発行

伝え合う力を高める国語科の学習指導 - 「書くこと」を通して -

新学習指導要領の国語科では、新たに「伝え合う力を高める」ことが目標に位置付けられた。伝え合う力とは、人間と人間との関係の中で、互いの立場や考えを尊重しながら、言語を通して適切に表現したり、理解したりする力である。情報化・国際化が進展している中で、子どもたちが伝え合う力を身に付け、日常生活の中でその力を豊かに発揮できるように高めることは、生きる力の育成につながり、大変意義がある。

しかしながら、子どもたちの実態から、「自ら調べ、判断し自分の考えをもち、それを表現する力が育っていない。」などの指摘もなされている。(教育課程審議会中間まとめ)

言語表現、特に書くことについて、子どもたちの多くは、「書くことが見付からない。」「自分の考えを適切に書けない。」などの苦手意識をもっている。また授業では尋ねる、調べるなど、活動そのものに重点が置かれ、調べた内容等を的確に伝えるためのまとめ方の指導が十分であるとは言い難い現状がある。

そこで、「書くこと」を通して伝え合う力を高める学習指導について、尋ねた事や調べた事をまとめる学習を中心に述べる。

1 新学習指導要領における「書くこと」

新学習指導要領では、自分の考えを自分の言葉で積極的に表現する能力や態度を重視して、「表現する能力」の育成が目標の最初に位置付けられた。また、言語能力の育成を図るため、領域が「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の3領域に改められた。さらに、学校や児童の実態に応じて重点的に指導する内容を取り上げ、繰り返して指導しやすいように目標、内容が2学年のまとまりで示された。

書くことの目標は、次のとおりである。

第1学年及び 第2学年	第3学年及び 第4学年	第5学年及び 第6学年
経験した事や想像した事などについて、	相手や目的に応じ、調べた事などが	目的や意図に応じ、考えた事などを
順序が分かるように語や文の続き方に注意して文や文章を書くことができるようにするとともに、	伝わるように、段落相互の関係などを工夫して文章を書くことができるようにするとともに、	筋道を立てて文章に書くことができるようにするとともに、
楽しんで表現しようとする態度を育てる。	適切に表現しようとする態度を育てる。	効果的に表現しようとする態度を育てる。

誰に、何のために、何について、どのように書くのか、学年ごとに重点化され、明確に系統立てて示されている。

取材、構成、記述、推敲・評価の指導に当たっては、目標に示された目的意識・相手意識を常に念頭に置いて書くように指導することが大切である。

2 書くことの学習指導の進め方

書くことを通して伝え合う力を高めるための基本的な学習指導の在り方と、指導過程に沿った工夫や留意点について述べる。

(1) 基本的な学習指導の在り方

育てる能力や態度を明確にする。

単元や1単位時間の指導計画の中に目標や評価規準として、育てる能力や態度を明確に位置付けて指導する。

身近で具体的な言語活動を工夫する。

指導に当たっては、社会科での見学先にあてて礼状や依頼状を書くなど子どもたちの生活とのかかわりを考慮し、より身近で具体的な言語活動を通して指導するよう工夫する。日常生活の場面をとらえた指導により、子どもたちは、学んだ事をその後の生活で生かし、書く力を高めることができる。

他の領域と関連付ける。

例えば、尋ねた事をまとめる学習では、インタビューやメモなどを取り入れ、話す、聞く、読むなどと関連付けて指導する。

相手や目的、意図などを明確にする。

誰に、何のために、どんな場で伝えるかがはっきりすると、書く材料の収

集や選択を円滑に進められる。さらに、相手に分かりやすい文章を書く必要性に気づき、そのための工夫をするようになる。

材料収集の仕方、まとめ方を指導する。

必要な材料が効率的に収集できると、余裕をもって整理、選択できる。また、まとめる手順や叙述の仕方を理解していると、子どもたちは、安心して文章にまとめていくことができる。

伝えたい思いを高め、伝え合う喜びを味わう場を設定する。

伝えたい思いが高まっているときは、書くための内容や事柄が豊富で焦点化されている。また、書いてよかったという伝え合いの喜びを味わうと、更に書こうとするようになる。そこで、思いを高めるための話合いの場や、書いた文章を読み合って感想を交流し、伝え合う喜びを味わえる場を設けるなど工夫する。

(2) 学習指導の工夫と留意点

導入

単元を概観させ、誰に、何のために、何を書くのか、そのために何について調べるのか、調べ方やまとめ方、伝える場などを明確にする段階である。

ア 指導上の工夫

- (ア) 育てる能力や態度を明確にし、1単位時間ごとの評価規準を作成する。
- (イ) 相手や目的などを明確に意識できるように、学習目標や計画をノートなどにきちんと書かせる。
- (ウ) テーマや内容を具体的に決める際、話合い活動を取り入れ、友達の思い

を聞く中で自分の考えを焦点化し、高め、内容を豊かにさせる。

(I) テーマの決定につながる図や写真などの資料を準備する。

イ 指導上の留意点

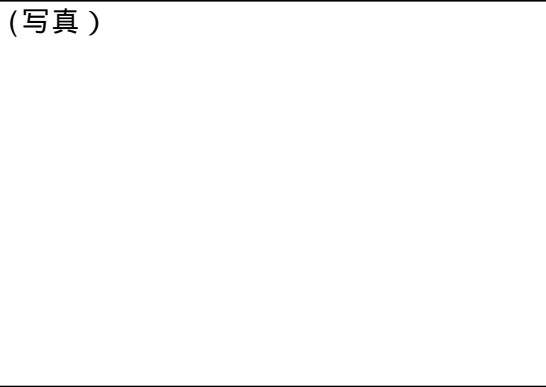
(7) 評価項目を精選し、評価が指導に生かせるようにする。

(1) 自分のテーマや内容を話合いの前後に書き、それを比べて自分の考えが明確になったことに気付かせる。

展開

テーマに沿って必要な材料を収集、整理、選択し、実際に書く段階である。

(写真)



ア 指導上の工夫

(7) いろいろな方法で調べさせる。その際、前年度に同学年が学習した資料などを活用することも知らせる。

(1) 収集した材料や分かった事について中間発表する時間を設け、語句の意味を確認させたり、更に調べる事や構成について話し合わせたりする。

(ウ) 事象と感想、意見などを区別して書いたり、詳しく書いたり簡単に書いたりするなど、目的や意図が伝わるような記述の仕方について、具体的な文章を基に確実に理解させる。

イ 指導上の留意点

(7) 学校図書館などを利用した効率的な材料収集の仕方を、他の教科等との関連も考えて年間指導計画に位置付ける。また、収集活動が行いやすい配架の工夫をする。

(1) 論理的な叙述の仕方を、説明文を読む学習と関連付けて指導できるように、指導計画への位置付けを工夫する。

終末

書いた文章を読み合った後、学習のまとめをし、身に付いた能力や態度が日常化できるよう意欲付けを図る段階である。

ア 指導上の工夫

(7) 書いてよかったという喜びが味わえるように、書いた文章を発表し合い、相互評価の場を設定するとともに、書く力が身に付いたかなど、評価カードなどを使った自己評価の場を設定する。

(1) 尋ねたときのメモ、集めた写真や資料、構成メモ、下書きなどを学習の記録として保存できるように工夫する。

イ 指導上の留意点

(7) 相互評価の際は、間違い探しになって評価を交流するよさが失われないように、伝え合うことに視点を置くようにする。また、自己評価では、能力や態度の目標に照らした評価カードを作成し、自分の学びの伸びを実感させるとともに、評価する能力も付けられるようにする

(1) 学習の記録の保存に当たっては、自分のこれからの学習に生かすことを理解させる。

3 学習指導の実際 - 単元の指導計画の構想例 -

この単元では、毎日の生活の中で疑問に思った問題について、友達と協力して調べた事を報告の文章に書いて読み合い、自分たちの生活を見直すきっかけにすることをねらっている。教科書に報告の文章の書き方の要点などがまとめているので、活用しながら学習を進めたい。構想例では、特に、指導過程の各段階に話し合い活動を取り入れ、伝え合う意識が持続できるようにした。また、育てる力を明確にすることに心掛けた。

(1) 単元

調べたことをほう告しよう(教材「生活を見つめて - 四年一組生活白書 - 」光村四下)

(2) 単元の目標

毎日の生活の中で疑問に思った自分たちに関係のある問題を取り上げて、アンケートを作るなどしながら友達と協力して調べ、分かった事と考えた事を区別して書くなど、読み手に分かりやすい報告の文章にまとめて書くことができる。

(3) 単元の指導計画(全13時間)

*は評価の観点

過程	主な学習活動	時間	指導上の留意点
導入	1 単元を概観し、学習目標や学習計画を立てる。	1	<ul style="list-style-type: none"> 白書の実物を見せて関心をもたせるとともに、書く目的、発表する場、読んでもらう相手を明確にする。 * 明確な目標や学習への見通し、意欲がもてたか。 各自の仮テーマをノートに書いた後、話し合わせる。 決定したテーマを仮テーマと比べ、感想を発表させる。 * 話し合いに参加し、テーマを決められたか。 * 調べる内容がはっきりし、意欲が高まったか。
	2 調べるテーマについて話し合い、グループをつくり、調べる内容を決める。	2	
展開	3 既習の方法や教科書の例を基に、調べる方法を話し合っ決めて、みんなで調べる。	3	<ul style="list-style-type: none"> 教科書を基に、アンケートの作り方を理解させる。 段落を意識できるように、調べた事は内容ごとに別々の用紙に記入させる。 * 調べ方が分かり、方法が決められたか。 * 必要な部分を読み、協力して調べられたか。 事柄ごとに書く内容や分かった事を話し合わせるとともに、書く順序、分担についても話し合わせる。 構成ができたなら、テーマに必要な材料が収集してあるか、中心が明確かについて、他のグループの意見も聞かせる。 既習単元でグラフや表を用いていたことを想起させる。 * 調べた事を整理し、分かった事をまとめられたか。 * テーマに沿って必要な事が調べてあるか判断できたか。 * 既習事項などを活用し、まとめ方が話し合えたか。 最初に、なぜ、何について、どんな方法で調べたかを書くことを理解させる。 事柄ごとに書く際も、読み手に分かりやすいように、調べた事、方法、分かった事、考えた事の順に書くことを理解させる。 感想や意見は事柄ごとに調べた事や分かった事のカードと色を違えたカードに書かせ、区別して書きやすくする。 説明文で学習した接続語を活用させる。 本で調べた事などを書くときは、言葉や意味を読み手に分かりやすく書き直すという既習の学習を想起させる。 * 読み手に分かりやすい報告の文章を書こうとし、書き方を理解して書くことができたか。
	4 調べた事を整理し、分かった事更に調べる事、まとめ方(方法の工夫、分担など)を話し合う。	3	
	5 教科書を読んで、読み手に分かりやすい報告の文章の書き方を理解し、実際に報告の文章を書く。	3	
終末	6 報告の文章を読み合っ感想や意見を交流し合い学習のまとめをする。	1	<ul style="list-style-type: none"> 調べた事を読み手に分かりやすい書き方で報告しようとしているかについて感想や意見を述べさせ、伝え合う喜びが味わえるようにする。 * よく伝えようとして書けたか。(相互評価) * 報告の文章の書き方で書けたか。(自己評価)

子どもたちは、自分の考えている事を自由に書くことは好んでする。そこから一歩進んで、相手や目的に応じて適切に書き、書いてよかったという伝え合いの喜びを味わわせたい。

【参考・引用文献】文部省『小学校学習指導要領解説 国語編』平成11年5月

(第一研修室)